

三番瀬漁場再生検討委員会における物理環境等の検討状況
(漁場特性マップの作成, 中間報告)

平成20年2月29日
農林水産部水産局水産課

三番瀬の漁場環境は、海域の減少や流れの停滞など、不安定な状況にあり、漁場としての生産力が低下しています。

そこで、漁業者の経験的知見やこれまでの調査で蓄積された科学的な知見を基に、三番瀬の漁場特性を整理した『漁場特性マップ』を作成し、潮の流れの改善も含めて、漁場再生の具体化に向けた改善策の検討を行うこととしております。

現在までの検討結果は、次のとおりです。

1 漁業者からの聞き取り結果

漁場の特性について、漁業者から経験的な知見を得るため、平成17年度から18年度にかけて、聞き取り調査を行い、別紙1～2のとおり(第7回三番瀬漁場再生検討委員会より抜粋)まとめました。

別紙1 漁業者からの聞き取り結果(漁場環境)

別紙2 漁業者からの聞き取り結果(アサリ漁業)

三番瀬漁場再生事業の取り組み状況

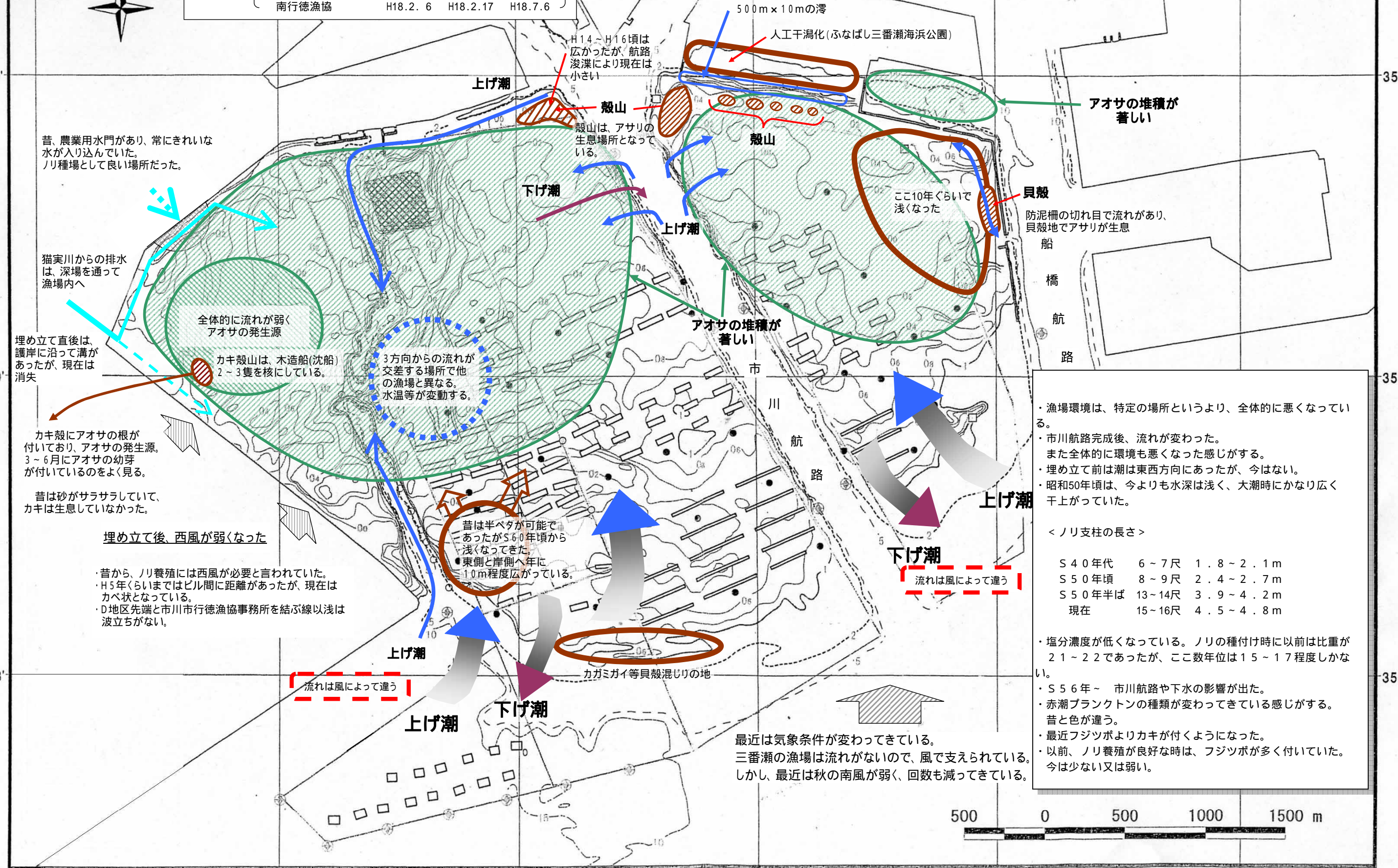
事業の展開方向	
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">長期的 取り組み</div> 抜本的な漁場再生に向けて展開すべき方向	流れづくり 漁場特性を整理した「漁場特性マップづくり」と干潟や澁も含めた流れづくりに向けた検討・取り組み
	青潮対策 青潮被害軽減のための検討
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">短期的 (当面の) 取り組み</div> 漁業生産を安定・向上させていくために当面展開すべき方向	江戸川出水対策 漁業への影響軽減対策の検討
	(緊急的課題) アオサ対策 アオサ回収システムの実用化 有効利用・処理策の確立
	藻場造成 地元と連携したアマモ場づくりの展開
漁業技術による対応	アサリ漁業 基礎調査・研究生産対策
	ノリ養殖業 品種改良 疾病対策 良質な種づくり 製品の高度化

: 漁場再生検討委員会での重点検討事項

漁業者からの聞き取り結果<漁場環境>

聞き取り日

船橋市漁協	H18.1.26	H18.2.6	H18.7.6
市川市行徳漁協	H18.1.26	H18.2.6	H18.7.6
南行徳漁協	H18.2.6	H18.2.17	H18.7.6



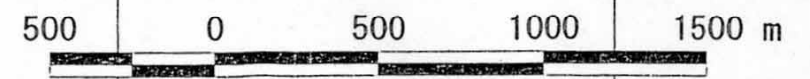
・漁場環境は、特定の場所というより、全体的に悪くなっている。
 ・市川航路完成後、流れが変わった。また全体的に環境も悪くなった感じがする。
 ・埋め立て前は潮は東西方向にあったが、今はない。
 ・昭和50年頃は、今よりも水深は浅く、大潮時にかなり広く干上がっていた。

<ノリ支柱の長さ>

S40年代	6~7尺	1.8~2.1m
S50年頃	8~9尺	2.4~2.7m
S50年半ば	13~14尺	3.9~4.2m
現在	15~16尺	4.5~4.8m

・塩分濃度が低くなっている。ノリの種付け時に以前は比重が21~22であったが、ここ数年は15~17程度しかない。
 ・S56年~市川航路や下水の影響が出た。
 ・赤潮プランクトンの種類が変わってきている感じがする。昔と色が違う。
 ・最近フジツボよりカキが付くようになった。
 ・以前、ノリ養殖が良好な時は、フジツボが多く付いていた。今は少ない又は弱い。

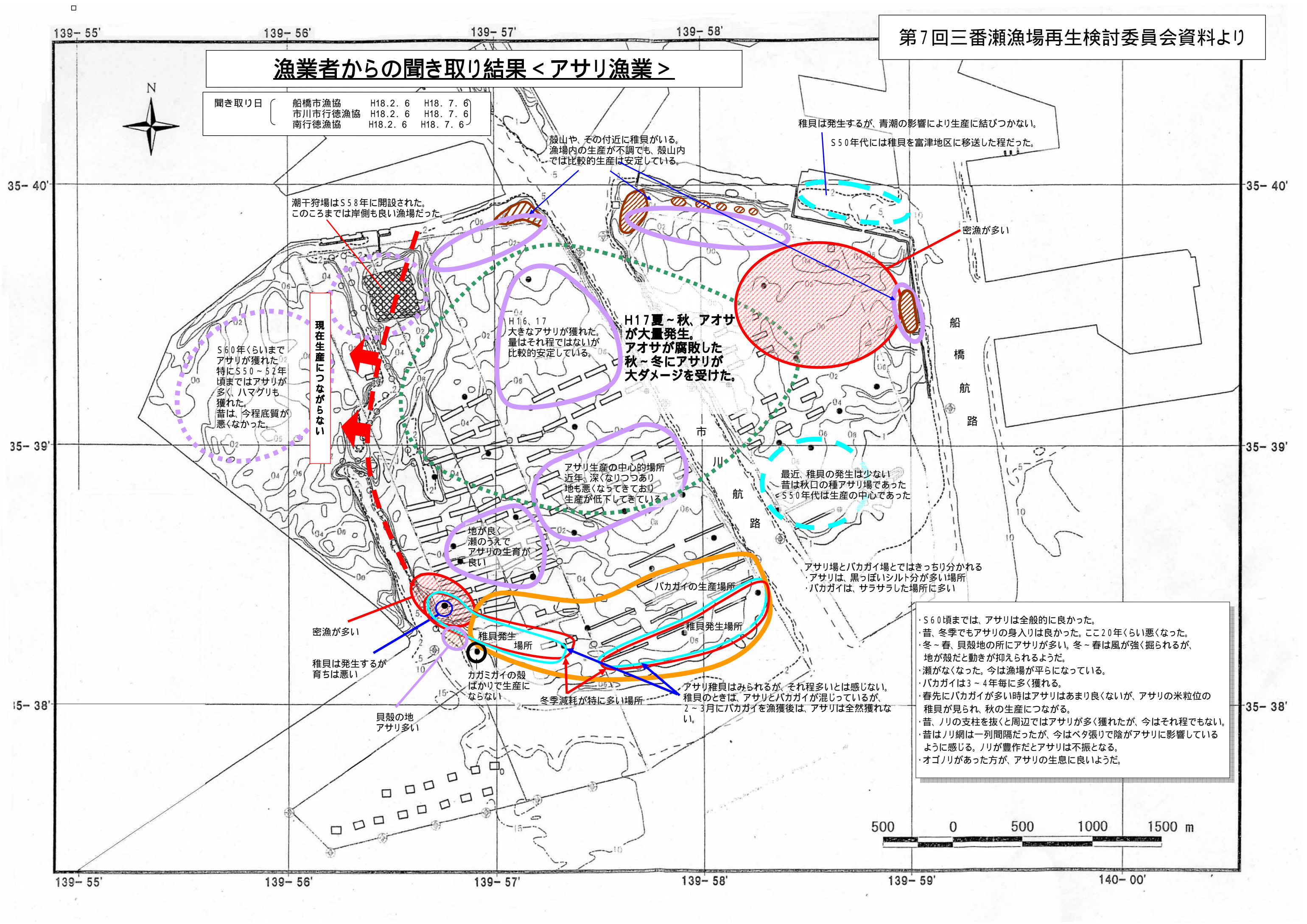
最近では気象条件が変わってきている。三番瀬の漁場は流れがないので、風で支えられている。しかし、最近では秋の南風が弱く、回数も減ってきている。



今後更に精査していきます。

漁業者からの聞き取り結果<アサリ漁業>

聞き取り日	船橋市漁協	H18.2.6	H18.7.6
	市川市行徳漁協	H18.2.6	H18.7.6
	南行徳漁協	H18.2.6	H18.7.6



潮干狩場はS58年に開設された。
このころまでは岸側も良い漁場だった。

殻山や、その付近に稚貝がいる。
漁場内の生産が不調でも、殻山内
では比較的生産は安定している。

稚貝は発生するが、青潮の影響により生産に結びつかない。
S50年代には稚貝を富津地区に移送した程だった。

S60年くらいまで
アサリが獲れた
特にS50~52年
頃まではアサリが
多く、ハマグリも
獲れた。
昔は、今程底質が
悪くなかった。

現在生産につながらない

H16、17
大きなアサリが獲れた。
量はそれ程ではないが
比較的安定している。

H17夏~秋、アオサ
が大量発生。
アオサが腐敗した
秋~冬にアサリが
大ダメージを受けた。

アサリ生産の中心的場所
近年、深くなりつつあり
地も悪くなってきており
生産が低下してきている。

最近、稚貝の発生は少ない
昔は秋口の種アサリ場であった
S50年代は生産の中心であった

地が良く
瀬のうえで
アサリの生育が
良い

アサリ場とバカガイ場とはきっちり分かれる
アサリは、黒っぽいシルト分が多い場所
バカガイは、サラサラした場所に多い

密漁が多い
稚貝は発生するが
育ちは悪い

稚貝発生
場所

カガミガイの殻
ばかりで生産に
ならない

冬季減耗が特に多い場所

アサリ稚貝はみられるが、それ程多いとは感じない。
稚貝のときは、アサリとバカガイが混じっているが、
2~3月にバカガイを漁獲後は、アサリは全然獲れな
い。

貝殻の地
アサリ多い

バカガイの生産場所

稚貝発生場所

- ・S60頃までは、アサリは全般的に良かった。
- ・昔、冬季でもアサリの身入りは良かった。ここ20年くらい悪くなった。
- ・冬~春、貝殻地の所にアサリが多い。冬~春は風が強く掘られるが、地が殻だと動きが抑えられるようだ。
- ・瀬がなくなった。今は漁場が平らになっている。
- ・バカガイは3~4年毎に多く獲れる。
- ・春先にバカガイが多い時はアサリはあまり良くないが、アサリの米粒位の稚貝が見られ、秋の生産につながる。
- ・昔、ノリの支柱を抜くと周辺ではアサリが多く獲れたが、今はそれ程でもない。
- ・昔はノリ網は一列間隔だったが、今はベタ張りで陰がアサリに影響しているように感じる。ノリが豊作だとアサリは不振となる。
- ・オゴノリがあった方が、アサリの生息に良いようだ。

